

西光寺だより

第二六号 令和三年 二月一日発行

新しい年を迎えはや二月となり、梅香る季節となつてまいりました。寒い日が続く中、そしてなかなか収束しないコロナ禍の中、梅が咲き始めました。「春が近いんだな」そんな気がして心があたたくくなります。

『紅梅』・『白梅』は花の色で区別されているのではなく、枝の内部の色で区別されていること、ご存じでしたでしょうか。

『紅梅』は枝の内部が赤っぽく、白梅は白っぽい色をしています。赤い花のつぼみをつけた梅でも内部が白であれば『白梅』ということですが。当然ながら、白い花を咲かせる『紅梅』もあります。

『紅梅』は幹の色味の美しさを活かし木材として、『白梅』は実の美味しさを活かし梅干しや梅酒などの食材として、私たちと関わっているのですね。

咲く時期も少し違うようで、『紅梅』は二月上旬から下旬、『白梅』は二月下旬から三月上旬が見頃らしいです。

花の美しさ、香り以外でもそれぞれの長所を活かして私たちを楽しませてくれています。

まだまだコロナの影響でお出かけするのもなかなか困難ではありますが、身近なところでもこうして季節を感じながら、ほっとできるひと時を過ごしたいものであります。

合掌



01616_00 - 2271954

◆先月の報告◆

浄土真宗のみ教えを伝えてくださった親鸞聖人は、私たちにも阿弥陀さまのおはたらきが届いていることを教えてくださいました。

そのご遺徳を偲び、お念仏に遇わせていただいたご恩に報謝する御正忌報恩講法要が、本願寺御影堂で一月九日（土）～十六日（土）まで勤められました。

今年も、新型コロナウイルスの感染拡大により、感染対策のもと厳かに営まれました。

法要の様子は宗派公式ウェブサイトやライブ配信され、コロナ禍で参拝できない僧侶、門信徒の方々がパソコンを通してお参りいたしました。

そういった状況の中、毎年参拝していた御正忌報恩講。一日でもお参りさせていたただきたく、感染予防対策を行い、車にて直接本願寺にお参りしたことであります。

けれどいざ本願寺境内に足を踏み入れると、例年の報恩講に比べ、閑散とし本当にここで行われるのかというくらい人が少なく、非常に寂しく生まれて初めての報恩講でありました。

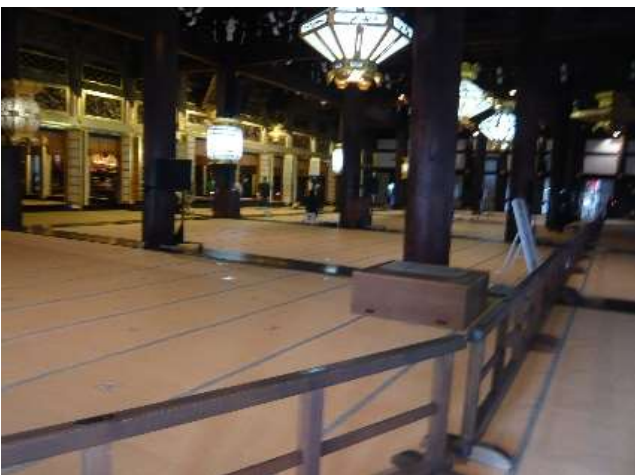
蓮如上人幼少期の本願寺は、非常に参拝者が少なかったといわれ、こんな風だったのかと勝手に想像しながらの参拝でありました。

年末年始の全国的な感染者急増を受け、当初予定していた事前予約制による一般参拝者の受け入れを中止し、当日の自由参拝となりました。堂内には間隔をあけた一〇〇席のイスが配置し、マスク・検温・消毒・参拝者の連絡先などを記入し、徹底しての参拝であったようであります。

参拝した十五日（金）は、ちょうど京都府に緊急事態宣言が発出されたことを受け、さらに感染防止対策を強化し、イス席を撤去。堂内にじつとどまつての参拝を中止し、時間ごとに移動しながら決してその場にとどまることなく参拝したことであります。

こんな形でも今までと変わらず手を合わせ、お念仏をさせていただき、そんな特別な一日でありました。

来年こそは本願寺でお参りしたいと願うことであります。



◆二・三月の行事◆

三月二十日(土・祝)

仏教婦人会総会・追弔会

午前十一時三十分から追弔会(正信偈)

午後十二時からお齋

午後一時〜総会

西光寺本堂

※コロナ禍のため、まだまだ収束不透明のため、令和二年度の総会・追弔会は中止とさせていただきます。

※仏教婦人会会員の方々には、三月初旬に書面にて総会での連絡事項(会計・行事報告)を配布させていただきます。

よろしくお願い致します。

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七七一

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>